関西大学ピア・コミュニティ 2020 年度報告書



関西大学

2020年度活動報告書の発刊にあたって

関西大学学生センター所長 松村 吉信

2007 年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」の採択を受けた「広がれ!学生自立型ピア・コミュニティ」から始まった本学のピア・サポート活動は、2020 年度に13年目を迎えました。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大・蔓延するなか、春学期のほとんどの時期で、キャンパスへの入構が制限され、ほとんど全ての授業がオンラインとなり、これに合わせて対面での課外活動が一切中止されました。「ステイホーム」や「ソーシャルディスタンス」に代表される人との接触が制限される中、新しい人との出会いは極端に少なくなり、人前でのマスク着用の推奨は、これまで行ってきた気の置けない仲間とのたわいない会話すらできない雰囲気を作り出し、悩みや不安を打ち明け、同じ悩みを経験した同世代の仲間との相談ですら、人の目を気にしながら行うものとなっていたことでしょう。いわゆるコロナ禍前のありふれた「日常」は非日常な行動へと変動していました。

大学に通うことさえもままならない多くの学生にとって、新しい形の人と人との繋がりが必要とされるようになりました。本学ピア・コミュニティの学生たちは、知恵を絞り、オンラインを主軸とした新しい活動の場を創出し、試行錯誤の中で考動した1年でもあります。コロナ禍を経験し、現にコロナ禍にいる私たちは、改めて、人とのつながりや出会いや支えあいが欠かせないものであること、環境(同じ空間や時間)を共有することの大切さを痛感するとともに、多様な一人ひとりが、社会に対してできることについて、想いを巡らせています。

このようなときだからこそ、本学ピア・コミュニティの原点となる「人は実際に人を支援する中で成長し、誰もが他者をサポートできる存在であり、サポートを受ける存在である。」という考え方に基づき、他者の立場に立ちつつ、「学生同士が、お互いさまの関わりの中で成長し合う。」を実践することが肝要です。学生自身が、この状況において他の学生が何を求めているのか、他の学生をどのようにサポートできるのかを考えて、その遂行に至る工程を工夫して目的の実現に挑戦するという一連の過程を通じ、さらなる豊かな人間性の形成につなげてほしいと願い、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

(化学生命工学部 教授)

目 次

1	ピア・サポータの育成	
	1.1 ピア・サポータの育成	 1
	1.2 シニア・サポータの活動	 3
	1.3 関西大学ピア・サポート研修	 8
	1.4 スキルアップ講座	 10
	1.5 コミュニティ・スキルアップ講座	 11
2	ピア・コミュニティの活動報告	
	2.1 ピア・コミュニティ活動のあゆみ	 13
	2.2 ピア・コミュニティの活動	 15
	2.2.1 ピア・コミュニティ運営本部	 15
	2.2.2 国際コミュニティ"KUブリッジ"	 19
	2.2.3 ピア・スポーツコミュニティ (PSC)	 26
	2.2.4 KUサポートプランナー (KUSP)	 27
	2.2.5 KUコアラ	 29
	2.2.6 関西大学学生 P R チーム S U G a O	 31
	2.3 ピア・サポータからのメッセージ	 35
	2.4 支援部署職員からのメッセージ	 40
3	学生支援室の活動報告	
	3.1 学生支援室の役割と主な活動	 43

巻末 参考資料

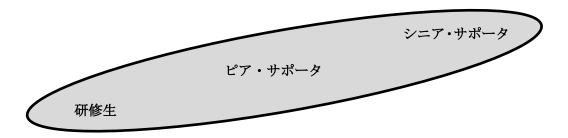
1 ピア・サポータの育成

1.1 ピア・サポータの育成

2015 年度に正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」は終了したが、ピア・サポータ養成を行うための研修と日常の活動により、これまでの質を維持できるようにしている。例年 50 名前後の学生がピア・コミュニティに所属し、ピア・サポート活動の実践を行っており、学生センターやピア・コミュニティを支援する教職員(支援部署を含む)、TAを中心とした取り組みに加え、学生自身によるピア・サポート活動の継承を促進するための仕組みとなる「シニア・サポータ」を設け、本学のピア・サポート活動を継続的・発展的に取り組んでいくこととしている。

ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ、およびピア・サポータ、シニア・サポータ の認定条件は次のとおりである。

【ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ】



	研修生	ピア・サポータ	シニア・サポータ
基礎資格	学部生/大学院生	学部生/大学院生	学部生/大学院生
保有するスキル・知識等	ピア・サポータの認定条件を 満たしておらず、単独で ピア・サポート活動を行うこと はできない者。	ピア・サポータの認定条件を 満たし、ピア・サポート活動を 行うために必要なスキル・知識 等を持つ者。	シニア・サポータの認定条件を 満たし、ピア・サポート活動に 関するアドバンストなスキル・知識 等を持つ者。
活動の範囲	所属するコミュニティでの ピア・サポート活動。	所属するコミュニティでの ピア・サポート活動。	所属するコミュニティでの ピア・サポート活動、および学生に よるピア・コミュニティの継承に 関すること。

【ピア・サポータおよびシニア・サポータ認定条件】

<ピア・サポータ認定条件>

ピア・サポータの認定条件は、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了とする。

<シニア・サポータ認定条件>

シニア・サポータの認定条件は、ピア・サポータとしての1年以上の活動と、「コミュニティ・スキルアップ講座」2つ以上の受講と、「スキルアップ講座」2つ以上の受講修了とする。

特例措置:各コミュニティの代表・副代表、およびその経験者について、「ピア・サポータとしての活動歴 (1年以上)と、スキルアップ講座3つ以上の受講修了」をもって、シニア・サポータとして認定する。

シニア・サポータの認定条件について、シニア・サポータの活動を安定的に行い、次年 度以降に引き継いでいけるようにするためには、シニア・サポータの人数を一定数確保す ることが重要であり、「学んだ知識やスキルをもとに他者を支援する活動」がピア・サ ポート活動であることを考慮し、一時的な措置ではあるが、今年度も継続して認定条件を 緩和する特例措置を行った。

認定条件を満たしているにもかかわらず、シニア・サポータの登録に及ばなかった学生が少なからずいる理由には、所属するコミュニティの活動が多忙であったり、就職活動の時期と活動時期が被っていることなどが考えられる。一方で、関心をもってはいるが認定条件を満たすことができなかった学生も存在することから、学生の前向きな気持ちを汲み取れるような対応も考えていきたい。

本学においてピア・サポート活動を継続的・発展的に取り組んでいくためには、シニア・サポータは欠かすことのできない重要な存在である。次年度以降へのスムーズな引継ぎを行うため、2020年度はシニア・サポータ認定前からシニア・サポータの活動への参画を許可した。実際にシニア・サポータの活動に参加するなかで引継ぎを行い、認定条件も並行して満たせるように講座の受講も必須とした。

2021年度以降も、次年度以降に残るシニア・サポータが中心となって、経験やノウハウを次の世代へと引き継いでいってくれることを期待する。

1.2 シニア・サポータの活動

2014年度に新設した「シニア・サポータ」は、2020年度には、新たに 2 年次生 2 名、3 年次生 1 名の登録があり、既に登録している 4 年次生 5 名と合わせて、合計 8 名で活動を行った。

9月に開催した「他大学交流会 Peer-kan's」は、2018年度の実施以来、今回で3回目の交流会となる。有意義な交流の機会となるよう、7月頃から、4年次生を中心にシニア・サポータミーティングを重ね、企画・準備を進めた。当日は、5大学(京都産業大学、京都女子大学、白鴎大学、北星学園大学、長崎大学)38名のピア・サポート活動を行っている学生と教職員スタッフの参加があり、本学のピア・サポータと交流を行った。

また、ピア・コミュニティに興味を持ってもらい、メンバー募集に繋げること、さらに、 対面とオンラインの両方を用いての企画を実施することで今後のピア活動の幅を広げるこ とを目的に、「ピア・フェスタ」を実施した。

2020 年度の活動報告会は、シニア・サポータを中心に、各コミュニティが準備を行い、初の試みとなるオンラインの実施であった。

以下に、今年度のシニア・サポータの活動を示す。

◆企 画 名 2020 年度他大学交流会「Peer-Kan's」

日 程 <u>2020 年 9 月 15 日 (火) 13:00~15:30</u>

場 所 オンライン開催 (Zoom)

参加者数 38 名 (うち、他大学 33 名、本学 5 名)

目 的

新型コロナウイルスの影響による活動制限下で、実際の活動を通じて得た知見を共有して、今後の学生ピア・サポートの在り方を大学間の交流を通じて再定義し、来学期以降の活動を創出する機会とする。

- 1) 今までにはない活動環境となる「集まれない」「イベント活動ができない」という前提で、これからの学生ピア・サポート活動をどのような形で行うべきか?
- 2) 新しい制約 (ニューノーマル) の中で、学生生活の変化やその変化に対応した学生に 対するピア・サポートの検証→秋学期以降も継続的に交流が行える関係性をめざす。

内 容

<テーマ>「春学期コロナ禍におけるピア・サポート活動の現状について」

第1部 発表会:コロナ禍での各大学の取り組みやこれからの活動に向けて

第2部 交流会:他大学との意見交流会

効 果

- ・第1部では、各大学からの提出資料をもとに、各大学のコロナ禍での取り組みや課題、 変化などについて包括的に発表していただいた。各校の発表後には質疑応答の時間を設 け、多くの質問や提案がなされた。
- ・第2部では、第1部での各校の取り組みや課題を知ったうえで、少人数のグループに分かれて交流を行った。

各グループ毎に関大生ファシリテーターを配置するとともに、事前に行ったアンケート 結果を共有するなどして有意義な話し合いが行えるような仕掛けを行った。

改善点

- ・第1部での質疑応答が想定よりも活発に行われた為、時間が全体的に押してしまった。 各所での時間短縮に努めたものの、最終的には 30 分ほど後ろ倒しとなってしまったため、次回以降は余裕を持ったタイムスケジュールを行いたい。
- ・参加後のアンケートでは、一部から「もう少し交流を行いたかった。」等の意見が寄せられた事から、次年度以降の開催では交流の割合を増やすなど、学生同士の意見交換・交流の割合を増加させることで満足度を向上したい。

- ・今年度は初のオンライン開催であったが、事前準備を含めて短期間で効率的な準備や周 知が行えたことは、今後オンライン・オフラインを併用して活動を行っていくうえで、 良い経験となった。
- ・全国的にもピア関連のイベントなどが縮小・中止となる中で、他大学交流会や課題の共 有を行えたことは、本学、他大学双方にとって大きな意義があったと感じている。
- ・今回で3回目となった他大学交流会であるが、これまで各大学と構築してきた関係をこれからも継続したいという意見が多く聞かれた。これを踏まえて、次年度以降の他大学 交流会もぜひ本学主催にて開催したい。

◆企 画 名 ピア・フェスタ

日 程 2020年10月26日(月)13:00~16:00

場 所 関西大学千里山キャンパス総合学生会館凜風館4階ミーティングルーム

参加者数 <u>22 名(うち、ピア・サポータ 9 名、一般学生 13 名)</u>

目 的

・ピア・コミュニティに興味を持っている学生たちにオリエンテーションを行い、ピア・ コミュニティに勧誘する。

・対面とオンライン配信を併用した企画を行うことで、今後のピア活動の幅を広げる。

内 容

13:00~14:10 ピア・コミュニティ概要説明(各コミュニティ個別説明含む)

14:10~14:40 休憩

14:40~15:40 ピア・コミュニティ概要説明(各コミュニティ個別説明含む)

効 果

- ・対面とオンラインを併用することで、より多くの学生にピア・コミュニティの紹介をすることができた。
- ・各コミュニティ代表者に対して、プレゼンテーションの機会を設けることができた。
- ・参加者アンケート回答者全員が、ピア・サポートについて理解が深まったと回答した。
- ・参加者アンケート回答者の9割が、本イベントを有意義なものだと感じた。

改善点

- ・前もってパワーポイントを印刷した資料を用意していなかった点。事前に印刷し、参加 者に配布すべきであった。
- ・各コミュニティのパワーポイントの形式を統一していなかった点。各コミュニティの連絡先などは、パワーポイントに必ず入れるべき事項として周知すべきであった。

- ・多くの人が参加し、各コミュニティの新入生歓迎の大きな助けとなったと感じた。
- ・本企画を継続的に続けることで、さらなる新入生の獲得を見込めると感じた。

◆企画名 ピア・コミュニティ活動報告会

日 程 2021年3月1日(月)13:00~16:15

場 所 <u>オンライン (Zoom)</u>

参加者数 32 名(うち、ピア・サポータ 23 名、一般学生 9 名)

目 的

学期末に各コミュニティがどのような活動を行ったのかを共有し、現在の情勢において 活動の形をどのように変化させるのかについて考える場を設けた。

内 容

1 部 2 部

13:00 開会・挨拶 15:15 welcome to peer

13:05 各コミュニティからの報告(質疑応答含む) 15:45 次年度に向けて

13:50 休憩① 16:05 職員・TA からのメッセージ

14:00 今年卒業するサポータからのメッセージ 16:15 クロージング・解散

14:45 0B・0G からのメッセージ (ピアで学んだことが社会人生活でどう生かされたか?)

14:55 教員(松村先生、石井先生)よりメッセージ

15:00 休憩②

効 果

- ・年度末の締めくくりとして、各コミュニティの活動を振り返る良い機会にできた。
- ・関西大学ピア・サポータ以外の一般の学生や他大学の方へ広く知ってもらう良い機会となった。
- ・「welcome to peer」を行う時間は少なかったが、これからコミュニティの垣根を越えて交流を持つイベントの良いデモンストレーションとなった。

改善点

- ・対面では発生しない運営上の問題が発生した。
 - ▶ ホスト権限所持者と全体司会が同じであると少ない時間で対応することになるので、 分けた方がスムーズに対応できる。
 - ▶ Wi-fi 環境が悪いと進行の大きな障害となるので、確認が必要。
- ・準備期間が短くなってしまったこともあり、プログラム内容や司会進行を詰めることができなかった。

- ・シニア・サポータとして、各コミュニティの振り返りの場を設けることができ、安心した。
- ・昨年から始まった報告会ではあるが、オンラインでの開催は今回が初めてということで、 他大学の方や一般学生にも気軽に参加してもらうことができた。しかし、オンライン開催 の難しさも感じた。
- ・報告会の反省で挙げれられたことだが、自発的・積極的に発言でできる環境や、トレーニングが必要だと感じた。
- ・所属するコミュニティの企画とシニア・サポータの企画では、考慮するべき事柄が多くな るので、そのことを踏まえて企画を進められるようにしたい。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症のため、思うように活動のできない 1 年であった。しかしながら、そのような状況の中でもどのように活動していくかを考え、オンラインを活用して「他大学交流会 Peer-kan's」や「ピア・コミュニティ活動報告会」などを実施することができた。特に、「他大学交流会 Peer-kan's」では、オンラインを活用することで、九州や北海道の大学にも参加していただくことができ、普段なかなか会う機会のない学生同士が交流できた。

また、新しい取り組みとして、秋学期の新入生歓迎イベント「ピア・フェスタ」も開催した。対面とオンライン配信を併用した企画を行うことで、今後のピア活動の幅を広げることができたと考える。

思い通りには活動ができない1年ではあったが、 その中でどのように活動をするか、何が今求められ ているのかを常に考えながら活動を行うことは、ピ ア・サポータたちにとって大きな経験となったと考 えている。また、ピア・コミュニティを引っ張ってい く立場として、シニア・サポータたちが率先してオ ンラインを活用した企画を考えたことは、シニア・ サポータとしての確かな成長につながったと考え る。





1.3 関西大学ピア・サポート研修

- 1 実施目的 ピア・サポータとしての自覚を促すとともに、ピア・サポート活動をする ために必要な知識・スキル等を研修生が身につけることを目的とする。
- 2 対 象 ピア・コミュニティ研修生
- 3 実施日時・実施場所・受講者数

	内容	日時	実施方法	参加者数
1	ピア・サポートって何だろう?	12月24日(木) ~1月15日(金)	動画視聴、レポート提出	18名
	自己理解とコミュニケーション ※2月18日(木)、3月25日(木)は同内容	7月17日 (水) 16:20~17:50		5名
2		2月18日 (木) 13:00~14:30	Zoom	12名
		3月25日(木) 10:40~12:10		5名
3	プランニング	3月8日 (月) 10:40~12:10		15 名

※①~③すべてを受講することにより、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了となる。

4 概 要 本研修は、学生支援室 TA4 名 (佐藤・科・山田・藤岡) が中心となり 考案・実施したものである。

【①ピア・サポートって何だろう?】

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、動画視聴とレポートを提出することで受講認定とした。ピア・サポータとしての自覚をもって活動できるよう、ピア・サポートの歴史や、ピア・サポートとは何かということ、関西大学にピア・サポートを導入した背景や、関西大学における取り組み、またピア・サポート活動での注意点などを説明した。

【②自己理解とコミュニケーション】

「自己理解」と「コミュニケーション」には深い関連性があると考え、昨 年度までそれぞれ単独で行ってきた研修を一つにまとめて行った。

•7月17日(水) 実施

ユング心理学に基づく「8つの性格別タイプ分析」を取りあげ、習慣化された自己の言動について認識するとともに、多様な性格パターンの存在を知ることや人間の多様性を理解することから始めた。その結果をも

とに、各々の日頃のコミュニケーションを振り返り、話すことと聴くこと、 どちらの傾向が強いのかについて確認を行った。より良い聴き方・話し方 を身につけられるよう、非言語コミュニケーション、オープン/クローズ ドの質問、アイ・メッセージについての説明も加えながら、自らの特性と コミュニケーションをどのように今後のピア・サポート活動に活かして いけるかを考える機会とした。

•2月18日(木)、3月25日(木) 実施

今まで歩んできた人生を振り返り自己理解を行うことで、自身を知り、 これからのピア・サポート活動に繋げることを目的に実施した。

まずは、次の2点を目的として「自分史」の作成を行った。

- ①自身を理解するために、過去の経験やその時の感情を振り返る。
- ②今後の活動・将来の指針になることを見つける。その後、話し手のポイント、聞き手のポイントを説明した上で、グループ内で「自分史」を共有し、積極的に関心を持って深く話を聞く力や、どのように自らの特性とコミュニケーションを今後のピア・サポート活動に活かしていけるかを考える機会とした。

【③プランニング】

初めにプランニングとは何かということや、目的と目標の違い、うまくいくプランニングの条件など、プランニングの概要について説明を行った。その後、グループに分かれて企画立案ワークを行った。「他キャンパスの学生にもピア・コミュニティに所属してもらう」ことを目的に、具体的に何をいつまでに実行するのかといったスケジューリングや企画内容などを、議論しながらワークシートに書き込み、発表、ファシリテーターからのフィードバックを行う形で、一連の流れを体験した。

5 所 感

学生支援室 TA が担当する②③の研修について、いずれのプログラム も講座中の様子は良好、受講者アンケートでも高評価を得ている。今回 初めての試みとなるオンラインでのプログラムであったため、事前資料 の準備やワークの内容、またその手順にも工夫を凝らした。工夫の1つ として、研修生の出席率を向上させるため、ファシリテーターを導入 し、相互交流をうまく行えるようにした。

その結果、例年一定数いた研修生のまま次年度に進む学生が、今年度は ①については研修生全員の受講があり、②③についても日程調整の結果、全員が受講の意思を示した。

オンラインの研修が今後も増えていくことを想定し、研修のあり方についても引き続き考える必要性を感じた。

1.4 スキルアップ講座

- 1 実施目的 ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を身につけ、 より多角的で質の高いピア・サポート活動を行えるようにするとともに、 ピア・サポータとしての意識を高め、ピア・コミュニティの継承を行う人 材を育成することを目的とする。
- 2 対 象 ピア・サポータ、研修生
- 3 テーマ・実施日時・講師・受講者数

	テーマ	実施日時	講師	受講者数
1	コミュニケーションスキルア ップ講座 2020 コミュ力向上!講座ーコミュ ニケーションの基本からオン ライン活用スキル!-	第1回 12月14日(月) 14:40~16:10 第2回 12月17日(木) 16:20~17:50	シチズンシップ共育企画 川中 大輔 氏	第 1 回 32 名 第 2 回 30 名

※ボランティアセンター主催「コミュニケーションスキルアップ講座」として開催。

受講者数には、ボランティアセンター学生スタッフ、ボランティア団体所属学生、一般学生を含む。

- 4 概要・受講者の声・講師からのメッセージ
 - ①「コミュ力向上!講座-コミュニケーションの基本からオンライン活用スキル!-」概要 第1回

聴くことと話すことの基本から説明があり、コミュニケーションの基本からオンラインまで活用できるスキルについて説明があった。オンラインツールでの活用ということもあり、3~4名のグループに分かれ、自身が話しにくい場を想定し、そうならないための聴き手の工夫をグループワークで話し合い、チャットを使用して発表した。

第2回

オンライン・オフラインに関わらず、ファシリテーションの基本について説明があり、前回に引き続き、3~4 名のグループに分かれ、よい会議やよい会議の実現を阻む事項についてグループワークで話し合い、その検討結果を Google フォームを使用して発表した。

<受講者の声>

会議を円滑に進める方法など、今後のミーティングやピア・サポート活動にいかせる 内容だった。

1.5 コミュニティ・スキルアップ講座

- 1 実施目的 自らや、所属するコミュニティでの活動を通して得た知識や経験を他の ピア・サポータ及び研修生へ還元することを目的とする。
- 2 対 象 ピア・サポータ、研修生

3 テーマ・実施日時・講師・受講者数

	テーマ	実施日時	担当コミュニティ	受講者数
1	グループディスカッション講座	11月18日 (水) 13:00~14:30	シニア・サポータ	5名
2	他大学交流会講座	12月23日 (水) 14:40~16:10	シニア・サポータ	6名
3	本の選び方講座	1月13日 (水) 16:20~17:50	KU コアラ	5名

4 概要・講師の声

【①グループディスカッション講座】

初めに効果的なグループディスカッションに必要な技術やプロセスの説明を行った。 その後、実際に「ピア・サポートの知名度をあげるためには?」をテーマにグループディ スカッションを行った。ピア・サポートをテーマにすることで、講座後の各コミュニティ の活動にも活かせる内容となった。

【②他大学交流会講座】

他大学交流会を企画し、開催するまでの一連のプロセスを学ぶことを目的として、 実際に他大学へ送ることを想定してメール文を作成してみるなど、他大学交流会を企画する上でのノウハウを学ぶ機会とした。また、受講者同士が日頃の活動で感じる悩みを共有し、他大学交流会をより有意義な時間とするためにはどうすればいいのかについて意見を 交換した。

【③本の選び方講座】

初めに読書の必要性やそれぞれに適した本の読み方の説明を行った。その後、レポートの参考文献など目的別の本の探し方、図書館、書店のように場所ごとの探し方、新書と文庫本の違いなど、多様な面から本の選び方やポイントを解説し、「読書の必要性」や「目的に応じた本の選び方」、「図書館や書店における本の探し方」を伝えることを目的として実施した。

<受講者の声>

【①グループディスカッション講座】

- ・グループディスカッションにおいて、役割ごとの働き方や進行の仕方に発見が多く、 ためになった。
- ・今後のピア・コミュニティでの活動に活かせる内容でよかった。

【②他大学交流会講座】

・ピアについての悩みを共有することができ、今後の姿勢に対して気持ちを改めることができた。

【③本の選び方講座】

・今まで全然知らなかった本の選び方や、サイトを知ることができたので、これから迷 うことが少なくなりそうでためになった。

2 ピア・コミュニティの活動報告

2.1 ピア・コミュニティ活動のあゆみ

2008 年度に発足した「国際コミュニティ"KU ブリッジ"」、「ピア・コミュニティ運営本部」、「ピア・スポーツコミュニティ」、2009 年度に発足した「KU サポートプランナー」、「KU コアラ」、「KU サポーターズ」、「ぴあかんず」、2010 年度に発足した「i. com」、そして、2018 年度には 9 つ目のピア・コミュニティとして、新たに「関西大学学生 PR チーム SUGaO」が発足し、ピア・サポート活動を行ってきた。以下の表は、2020 年度における各ピア・コミュニティのあゆみである。

▼2020 年度の活動状況

	運営本部	KUブリッジ	PSC	KUSP	KUコアラ	SUGao	シニア・サポータ
4月							
5月			新型コロナウ	7イルス感染症の影	響で活動休止		
6月	•						
7月		・日本語 (オンライン) カフェ					
8月		・日本語(オンライン) カフェ					
9月							・2020年度他大学交 流会「Peer-kan's」
10月							・ピア・フェスタ
11月	・ピア・フェスターライトー					・学園祭企画トーク ショー「草野華余子 ×越前谷俵太」	
12月	・ピア・カフェ				・集え!!本好 き読書交流会 inZoom	・SUGaOTV!! ・SUGaOTV!!(対談 企画)	
1月		・ワードウルフ					
2月		・超楽しい!!!心理テスト!!!一緒にしよう!!! ・絵しりとり~絵で心を 繋げよう~					
3月				2020年度活動報告: ・オンラインで できるビジネス マナー講座	<u></u>	***************************************	

※KUサポーターズ、ぴあかんず、i.com は活動休止中

▼【参考】各ピア・コミュニティのあゆみ

【参考】各ピア・コミュニティのあゆみ

	ピア・ コミュニティ 運営本部	国際 コミュニティ "KU ブリッジ ["] "	ピア・スポーツ コミュニティ (PSC)	KUサポート プランナー (KUSP)	KUコアラ	KU サホータース	びあかんず	i.com	関西大学学 生PRチーム "SUGaO"
2007	2008年4月 発足	2008年4月 発足	2008年4月 発足						
2008				2009年4月 発足	2009年4月 発足	2009年4月 発足	2009年4月 発足		
2009								2010年4月 発足	
2010									
2011									
2012									
2013									
2014						<u> </u>	活動休止		
2015			活動休止			<u> </u>		活動休止中	
2016						<u> </u>			
2017						<u> </u>	2018年3月 ピア・サポータ 有志により復刊 号を発行		
2018							活動再開		2018年4月 発足
2019			活動再開						
2020						活動休止中	活動休止中		

2.2 ピア・コミュニティの活動

この章では、ピア・サポータからの声を中心に、ピア・コミュニティの趣旨と特徴、各活動の実際を紹介する。

2.2.1 ピア・コミュニティ運営本部

■ ピア・コミュニティの趣旨

ピア・コミュニティ運営本部(以下、「運営本部」という。)は、存在する全てのピア・コミュニティを見渡し、ピア・コミュニティ間の連携や情報共有を促す役目を担っている。そのため、ピア・サポータの合宿や研修などの企画・運営を行い、ピア・コミュニティ間の交流を促進している。このほか、関西大学におけるピア・コミュニティの普及と各ピア・コミュニティの活動支援を行っている。

■ 所属人数

13名 *1年次生0名、2年次生3名、3年次生4名、4年次生6名(2021年3月末現在)

■ ミーティングの概要

週1~2回(曜日は不定期。随時、調整。)

■ ピア・コミュニティ内の連携

今年度も会議の改善と研修生がピア・サポート活動に積極的に関わっていける環境づくりに努めた。

会議を1週間に1回設け、メンバーの出席率が高い日程と時間に設定した。また、欠席者のために議事録をメーリングリストで送信する、定例会議とは別に情報共有の時間を設けるなどの取り組みによって、会議において活発な議論が行えた。

企画を進めていく際は、必ず研修生を交えて行った。こうすることで、研修生は活動になじむことができ、今後企画を運営していく上でのノウハウを学ぶことができた。

■ ピア・コミュニティ間の連携

運営本部はその活動の趣旨から、必然的に他のピア・コミュニティを支援する連携体制を取っている。また、合宿、活動報告会などの合同企画を通じて、全てのピア・コミュニティに所属するメンバー間の交流を促進させ、連携を深めることができるように活動している。

■ 教職員との連携について

支援母体であるボランティア活動支援グループの教職員から、要所で助言をいただきながら活動を進めてきた。今後も適宜教職員と意見交換をしながら、学生主体のより質の高いピア・サポートをめざしていきたい。

■ 課題

今年度は、初めての試みとして、ピア・コミュニティ全体で「ピア・フェスタ」や「ピア・カフェ」の新入生歓迎行事を行った。しかし、運営本部としては、人手不足が発生しているため、ピア・コミュニティ全体を支えていける人員集めと育成や環境形成が今後の課題である。

◆企画名 新入生歓迎オリエンテーション

日 程 2020年9月22日(火)15:00 ~ 2020年9月22日(火)19:00

場 所 千里山キャンパス 100 周年記念会館

参加者数 2名 (ピア・サポータ 2名)

目 的

・新入生歓迎オリエンテーションに参加し、ブース設置によるピア・サポートの普及とピア・ コミュニティの広報を行う。

・新入生歓迎オリエンテーションを通して、各コミュニティがそれぞれでメンバーを募り、 関西大学ピア・コミュニティ全体の規模拡大を図る。

内 容

・本企画は、新入生に対して、ピア・サポートとは何かということを周知するための機会と し、ピア・コミュニティの活動に興味を持ってもらい、新メンバー募集の促進に役立てる ために行った。

感 想

・新型コロナウイルス感染症の影響で春学期開催予定であったオリエンテーションが延期 となり、どれほどの新入生が参加するか分からない中で、各コミュニティそれぞれに興味 を持った新入生がいた様子で、直前での決定ではあったが、オリエンテーションに参加し てよかったのではないかと思う。

改善点

・参加周知が直前になり、十分な準備期間をつくることができなかった。

◆企画名 ピア・フェスタ-ライト-

日 程 2020年11月11日(水)、11月13日(金)、11月18日12:10~13:00

場 所 ピア・エリア、オンライン (Zoom)

参加者数 26 名 (ピア・サポータ 15 名、一般学生 11 名)

目 的

- ・ピア・サポート活動を普及させるために、ピア・コミュニティの存在とその活動を一般学生に知ってもらうこと。
- ・ピア・サポート活動の継承と発展のために、各ピア・コミュニティに新メンバーを呼び込むこと。

内 容

各日 12:10~12:30 各ピア・コミュニティからの活動紹介 12:30~12:50 各ピア・コミュニティから一般学生への個別相談

1. 各ピア・コミュニティからの活動紹介 各ピア・コミュニティに、コミュニティを紹介するパワーポイントスライドの作成 を依頼し、それを使用して説明を行ってもらった。

2. 個別相談

対面参加者には対面で、Zoom 参加者には Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて、興味のあるコミュニティのピア・サポータが、活動内容や活動頻度について個別に説明と相談を行った。

効 果

- ・Zoom と対面のハイブリッド開催だったが、パソコンの前で発表をすることで、対面・ Zoom の両参加者に分かりやすく、聞き取りもしやすい発表ができた。
- ・個別相談では、参加者と各コミュニティのピア・サポータが個別に話すことによって、 参加者のピア・サポート活動への理解が深まり、活動頻度や活動の大変さなどの不安と なる要素の払拭もできた。
- ・Zoom 参加者にもブレイクアウトルーム機能を利用することで、一対一で相談ができる 環境の提供ができた。

改善点

- ・各ピア・コミュニティ活動紹介では、各コミュニティからの発表スライドの内容がバラ バラだったため、内容を統一し、参加者にとってわかりやすい情報の提供に努めるべき だった。
- ・個別相談では、Zoom 参加者への個別相談する際のパソコン環境が十分ではなく、途中でパソコンがフリーズするというトラブルが起こった。
- ・パソコンのネットワーク環境について、KU Wi-Fi は混雑し、回線が切断される可能性があるので、ピア・エリア内の LAN ポートから LAN ケーブルでパソコンにネットワーク接続するように各コミュニティに伝えていたが、周知されておらず、回線が不安定になったことがあった。

感 想

ピア・コミュニティに興味のある学生が、実際にピア・サポート活動を行っている学生 と話して触れ合う場の提供ができたことは、大きな成果であったと考えている。しかし、 全体的にもう少し余裕をもって企画・準備を進めるべきであったと反省している。 **◆企 画 名** ピアカフェ

日 程 2020年12月14日(月)~12月18日(金)12:10~13:00

場 所 オンライン (Zoom)

参加者数 13 名 (ピア・サポータ 10 名、学生支援室 TA 1 名、一般学生 2 名)

目 的

- ・ピア・サポート活動に興味を持った学生に対して、ピア・サポート活動の魅力を伝える。
- ・学生生活で困っていることについて相談にのる。
- ・ピア・サポータと一般学生の交流を通して、ピア・サポート活動やピア・コミュニティ について一般学生に知ってもらい、新メンバー獲得につなげる。

内 容

各日

12:20~12:30 アイスブレイク

12:30~12:50 参加学生に合わせた内容のフリートーク

○アイスブレイク

Zoom での開催であったため、対面よりコミュニケーションが不足するという懸念があり、最初にアイスブレイクを行った。

効 果

- ・参加学生に対して、各コミュニティのピア・サポータと一対一で話すことで、ピア・コミュニティに対する理解が深まり、新メンバー獲得に貢献する機会となったことは成果であった。
- ・Zoom というオンライン上の環境でも、簡単なアイスブレイクを実施することで、打ち解けた空気をつくることができた。
- ・参加者と各コミュニティのピア・サポータが個別に話すことによって、参加者のピア・ サポート活動への理解が深まり、活動頻度や活動の大変さなどの不安となる要素の払拭 もできた。

改善点

- ・参加者が少なかったので、アイスブレイクの内容をもう少し充実した内容にしても良かった。
- ・参加者が多いときと少ないときの両方に対応できるように、アイスブレイクの内容を考 えておく必要があった。
- ・学生生活に対する悩みを持った学生の相談も受け付けていたので、もし、そのような内容の相談を受けたときの準備が不足していた。
- ・次回開催する際は、学生がどのような悩みを持ってやってくるのかということや、それ に対する返答をあらかじめ考えておくこと、また、ヒアリングシートなどの活用も検討 する必要がある。

感想

- ・ピア・コミュニティに興味のある学生が、実際にピア・サポート活動を行っている学生 と話して触れ合う場の提供ができたことは、大きな成果であったと考えている。
- ・参加学生とピア・サポータがアイスブレイクによって、打ち解けあった状態で、話すことができたことはとてもよかった。
- ・短く簡単な内容のアイスブレイクであっても、企画を円滑に進行させるために必要であると強く感じた。
- ・アイスブレイクのおかげで、参加している人とスムーズにコミュニケーションをとることができて良かった。

2.2.2 国際コミュニティ "KUブリッジ"

■ ピア・コミュニティの趣旨

国際コミュニティ "KU ブリッジ" (以下、「KU ブリッジ」という。) は、留学生の学生生活の充実を図るため、主に国際交流イベントを実施している。このイベントにより、留学生と日本人学生との交流を促進している。また、国際部と連携した活動も行っている。

■ 所属人数

29 名 *****1 年次生 4 名、2 年次生 11 名、3 年次生 5 名、4 年次生 8 名、大学院生 1 名 (2021 年 3 月現在)

■ ミーティングの概要

KU ブリッジ全体ミーティング 週1回、国際部ミーティング 月1回

■ ピア・コミュニティ内の連携について

企画は 3~4 人程度のグループで考え、実行・振り返りまで一貫して行っているため、他のグループの状況がわかるように、週に 1 回の全体ミーティング(以下、「MTG」という。)で KU ブリッジ全員が必ず顔を合わせるようにしている。MTG の前半において、各グループ 5 分程度で進行状況を報告したり、各グループが作成した資料など携帯やパソコンで誰でもいつでも確認できるようにしたりすることで、情報共有を徹底している。またMTG 後半においては、各グループから提案のあった課題についてディスカッションをしたり、ワークを行うことで、KU ブリッジ全員のモチベーション向上とスキルアップを図っている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

主に連携する機会は代表者会議である。春と夏に行われるピア全体合宿や他のコミュニティが実施している企画など関わる機会は多くあるが、主体的に参加するメンバーはほんの一握りなのが現状である。他コミュニティの学生と関わることのメリットを先輩から後輩へ伝え、連携を促進していく必要があると考える。

■ 教職員との連携について

関西大学のグローバル化はまだ改善の余地があり、KU ブリッジと支援母体である国際部の連携を強化することで、学内での国際交流を活発化させることができると考えている。国際部の職員の方と関わる機会を得るため、昨年度に引き続き、毎回 1 回、国際部職員と KU ブリッジ幹部との話し合いの場を設けた。国際交流の活性化や KU ブリッジが国際部へ求めていること、国際部が KU ブリッジに求めることについて意見交換をし、その結果、KU ブリッジと国際部の関係性がさらに密になった。今後も国際部との連携の重要性を認識し、共に関西大学のグローバル化を促進していきたい。

■ 課題

KU ブリッジをよりよくするには、全員が関西大学のグローバル化を促進するために今年1年 KU ブリッジとして何をしなくてはいけないかしっかりと目標を持ち、その上で企画の質とともに、一人ひとりの意識を向上させる必要があると感じ、サポートにまわることが多かった既存メンバーも自分の考えた企画を実施するなど、新しいことに取り組んだ。さらに自分たちの弱みを見つけ、改善するためワークを行った。このワークは次年度も引き続き行うが、ワークのみにとどまらず、実際に普段のミーティングや企画に反映していくことが重要と考える。また、弱みのひとつとして、既存メンバーと新メンバー間の引き継ぎが十分ではないことがあげられる。今後は、企画運営の流れのマニュアル化を行い、誰もが企画・運営を行える体制作りに取り組みたい。そして、メンバー間での情報共有の徹底を心掛け、同じ目標に向かって活動する団体をめざしていきたい。

◆企画名 ~KUブリッジ~日本語カフェ

日 程 2020年8月30日(日)

場 所 オンライン (Zoom)

参加者数 14 名 (ピア・サポータ 3 名、研修生 4 名、留学生 7 名)

目 的

留学生が気軽に日本語の会話練習をすることができる場所をつくり、このイベントを通 して留学生に日本についての理解を深めてもらう。また、留学生と日本人学生が交流して 親しくなることで、留学生を日常的にサポートできる環境をつくる。

内 容

当日のスケジュール

- 19:55 Zoom を開始し、スタッフが参加。
- 20:00 参加者が参加し、KUブリッジから挨拶した後、全員で自己紹介を行った。
- 20:15 Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用しグループ分けを行った。
- 20:20 日本語を使い参加者と交流。
- 20:30 グループを変えて、再び交流。
- 20:40 全体で日本に関するクイズゲームを行った。
- 20:50 参加者にアンケートに答えてもらい、参加者は解散。
- 21:00 スタッフはフィードバックを行い、解散。

効 果

- ・オンライン授業になり、留学生が日本語を使う機会が少なくなっている中で、留学生が日本語を使う機会をつくることができた。
- ・留学生が不安に思っていることや KU ブリッジに行ってほしいことを聴き、秋学期からの 活動に向けて参考となる意見をもらうことができた。
- ・コロナウイルスの影響でイベントを行うことが難しく、留学生に KU ブリッジについて告知する機会が少ない中で、本イベントは KU ブリッジの存在を知ってもらう良い機会となった。

改善点

- ・Zoom を開始した後、参加者が全員揃うまでの待ち時間に、先に参加している参加者とコミュニケーションが取れていなかった。
 - →開始直後の参加者を待機する時間や、ブレイクアウトルームの準備をする時間などの 待ち時間にも、参加者との会話を心がけて積極的に交流する。
- ・参加者それぞれが話す時間が短くなってしまったので、参加者から話し足りなかったという意見が多く寄せられた。
 - →今回はブレイクアウトルームを2つ作り、1グループ7人と少し多めの人数で交流したことで、一人ひとりが話す時間が短くなってしまったため、次回からはブレイクアウトルーム数を増やし、3人ほどの少人数で交流

感 想

日本語カフェは約1年前から企画してきたイベントであり、オンラインという形になってしまったものの実施することができて大変嬉しかった。オンラインでのイベント開催は初の試みであり不安な点も多かったが、実施内容について話し合いを重ね、前日にはリハーサルを行ったため、当日は大きな問題なく進行することができた。本イベントはこれからも定期的に開催する予定のため、今回の反省点を踏まえて、次回以降により質の高いイベントを実施できるよう努力したい。

◆企画名 ~KUブリッジ~日本語カフェ

日 程 2020年11月29日(日)

場 所 オンライン (Zoom)

参加者数 17 名 (ピア・サポータ 2 名、研修生 2 名、留学生 9 名)

目 的

留学生が気軽に日本語の会話練習をすることができる場所をつくり、このイベントを通 して留学生に日本についての理解を深めてもらう。また、留学生と日本人学生が交流して 親しくなることで、留学生を日常的にサポートできる環境をつくる。

内 容

当日のスケジュール

- 19:20 Zoom を開始し、スタッフが参加。
- 19:30 参加者が参加。
- 19:35 KUブリッジの紹介を行った後、全員で自己紹介を行った。
- 19:40 Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用しグループ分けを行った。
- 19:45 日本語を使い参加者と交流。
- 20:00 グループを変えて、再び交流。
- 20:20 全体で日本に関するクイズゲームを行った。
- 20:35 参加者にアンケートに回答してもらい、写真撮影を行った。
- 20:40 参加者、スタッフ共に解散。
- 20:45 スタッフは再び Zoom に参加。
- 21:00 フィードバックを行い、スタッフ解散。

効 果

- ・日本に関するクイズゲームを行ったことで、参加者に日本の文化を紹介することができ、 本イベントの留学生に日本について理解を深めてもらうという目的を達成できた。
- ・KUブリッジの新部員は、コロナウイルスの影響でイベント数が少ないことから、KUブリッジに所属しているにもかかわらず、イベントへの参加や留学生との交流が難しい状況だった。本イベントは新部員に KU ブリッジの活動を体験しイメージしてもらう良い機会になった。

改善点

- ・マイクの調子が悪く声が聞こえにくい参加者や、雑音が混じるなど、コミュケーションがとりにくい点があった。
 - →オンラインで行うからこそ生じてしまう問題だと考えられるため、次回以降は感染状況を考慮しながら対面での開催を試みる。
- ・予定のイベント終了時刻は21時だったが、20分ほど早くに終了することになった。
 - →定期的に時計を見るなどして、予定通りに進行できているかを確認することを心がける。また、今回は司会が時間管理を行ったが、次回からは時間管理をするスタッフを 設ける。

感 想

コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインではあったが、国際交流できる機会を作ることができた。また、前回開催した日本語カフェで挙げられた改善点を修正した内容で開催することができたのではないかと感じる。一方で、今回の開催分からも改善すべき点が複数見つかった。今後もそれらの改善点を踏まえ内容を変更するなど工夫し、よりよいイベントを開催できるよう努力したい。

◆企 画 名 ~KUブリッジ~日本語カフェ

日 程 2020年12月22日(火)

場 所 オンライン (Zoom)

参加者数 18 名 (ピア・サポータ 2 名、研修生 9 名、留学生 7 名)

目 的

留学生が気軽に日本語の会話練習をすることができる場所をつくり、このイベントを通して留学生に日本についての理解を深めてもらう。また、留学生と日本人学生が交流して親しくなることで、留学生を日常的にサポートできる環境をつくる。

内 容

当日のスケジュール

- 19:55 Zoom を開始し、スタッフが参加。
- 20:00 参加者が参加。
- 20:05 KU ブリッジの紹介を行った。
- 20:10 Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用しグループに分かれ、日本語を使い交流。
- 20:25 グループを変え、交流。
- 20:40 グループを変え、交流。
- 20:55 参加者にアンケートに回答してもらい、写真撮影を行った。
- 21:00 参加者、スタッフ共に解散。
- 21:05 スタッフは再び Zoom に参加。
- 21:15 フィードバックを行い、スタッフ解散。

効 果

- ・今回は普段ミーティングを行っている火曜日にイベントを開催したため、参加できるスタッフが多かった。日本人学生の割合が増えたことで、留学生により質の高いイベントを提供できた。
- ・今回は新部員が6名参加し、フィードバックでは留学生との交流が楽しかった、留学生から交流時間があっという間に過ぎていくと言ってもらうことができたなどの感想があった。本イベントはオンラインではあるものの、新部員にイベントの雰囲気をつかんでもらう良い機会になった。また、KUブリッジでの活動のやりがいや楽しさを実感してもらえた。

改善点

- ・Zoom 開始後の全ての参加者が揃うまでの待機時間や、グループ分けを設定している間に 参加者とコミュニケーションが取れなかった。
 - →スタッフは始めからカメラをつけておき、スタッフ同士で会話しながら参加者が発言 しやすい雰囲気をつくるとともに、積極的に参加者に声掛けをする。
- ・イベントを通して、やや雰囲気が重く感じた。
 - →各自飲み物や食べ物を用意する、音楽を流すなどの工夫をして楽しい雰囲気づくりを 意識する。

感 想

本イベントは今回で3回目の開催であった。平日の開催だったため参加者が集まるか不安ではあったが、多くの留学生が参加してくれた。また参加可能なスタッフも多かったため、質の高い、企画者としても納得のいくイベントを提供することができた。今回は対面とオンラインを併用して行う予定にしていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、オンラインのみの開催となった。対面で行いたい気持ちが強いが、オンラインでのイベント開催に慣れてきたことにより、対面で行うイベントに近い質をオンライン上で実現できるようになってきたと感じる。今後もできる限りの工夫をして、一度参加してくれた人がもう一度参加したいと思えるようなイベントにしていきたい。

◆企 画 名 <u>ワードウルフ</u>

日 程 2021年1月15日(金)

場 所 オンライン (Zoom)

参加者数 13 名 (ピア・サポータ 2 名、研修生 5 名、留学生 6 名)

目的

コロナ禍において対面での交流が難しいため、Zoom を用いて留学生との交流を深めることを目的とする。

内 容

当日のスケジュール

19:55 スタッフ集合

20:00 参加者受付

20:05 挨拶と自己紹介

20:10 ルール説明

20:20 1回戦

20:40 2回戦

21:00 3回戦

21:20 参加者へのアンケートと写真撮影

21:25 参加者、スタッフ共に解散

21:30 スタッフは Zoom にてミーティング

22:00 スタッフ解散

効 果

1 人ずつ話す時間を作ったり全体や個人的にも話を振ったりすることで、みんながお互いに話せていた。

改善点

- ・ブレイクアウトルーム作成など、Zoom機能を把握できていない部分があった。
 - →準備段階で確認しておくべき。
- ・話と話の間に沈黙ができた。
 - →事前に起こりうることを想定した上で準備をし、上手くいかなかったことは全体で共 有しておく。
- ・準備段階においては、ポスターや周知文の担当を決めていたが、期限を決めていなかっ たため、ギリギリになってしまった。
 - →チェック・修正に時間がかかるので、期限を決めて余裕をもって準備をする。また 2 週間前に周知することで、後から伝えたいことも伝えることができる。

感 想

周知が遅くなってしまったこと、また Zoom での企画でもあったために、参加者が少ないのではないか心配していたが予想以上に参加者が集まってくれた。

「ワードウルフ」のルールを参加者の方が知らないと想定してルール説明を準備したが、ルールを知っているという参加者も多かったため、ゲーム自体はスムーズに進行することができ、それぞれが発言の場を持つこともできた。今回の企画の改善点で特に目立った、Zoom機能と準備期間についての反省を2月以降の企画に活かし、よりよいイベントを開催できるよう努力したい。



◆企画名 超楽しい!!!心理テスト!!!一緒にしよう!!!

日 程 2021年2月15日(月)

場 所 オンライン (Zoom)

参加者数 13 名 (ピア・サポータ 3 名、研修生 6 名、留学生 4 名)

目 的

心理テストを話題のきっかけとして、日本人学生と留学生の仲を深めることを目的とする。

内 容

当日のスケジュール

19:50 スタッフ Zoom 参加

20:00 参加者 Zoom 参加

20:05 グループ分けと自己紹介 (グループ内で)

20:10 20 分間グループ交流① (心理テストから空いた時間で雑談)

20:30 20 分間グループ交流②

20:50 写真撮影とアンケート

21:00 Zoom 終了

21:10 スタッフフィードバック

効 果

心理テストの内容がわかりやすい内容だったため、留学生も楽しむことができた。

改善点

- ・スタッフが Zoom の使い方を細部まで理解できていなかったため、運営に少々時間がかかった。
 - →念入りに準備をしなくてはいけない。
- ・最初の参加者を待つ時間が長かったため、始まりが遅くなってしまった。
 - →「5 分待って来なければ強制的に始める」といった、きちんとした時間設定をしなければならない。
- ・場を和ませるために、スタッフ同士でよく話をしてしまった。
 - →留学生にも話を振って、もっと交流を深めるべきである。

感 想

心理テストを通して、参加者の内面を短時間で知ることができた。特に、恋愛を元にした心理テストの内容では、結果と実際の性格が合致していることが多かったため、終始笑いが絶えず、楽しい時間を過ごすことができた。これからも定期的に交流イベントを開催して、留学生とコミュニケーションが取ることができる機会を提供したい。



◆企画名 絵しりとり~絵で心を繋げよう~

日 程 2021年3月27日(土)20:00~21:00

場 所 オンライン (Zoom)

参加者数 6 名 (ピア・サポータ 2 名、研修生 3 名、留学生 1 名)

目 的

新型コロナウイルスの感染拡大により、留学生が日本人学生と交流することのできる機会が減少している。本イベントを行うことで、留学生に日本人学生と交流する機会を提供するとともに、「絵しりとり」というコミュニケーションを必要とするゲームを通して留学生と日本人学生の交流を深めることを目的とする。

内 容

当日のスケジュール

19:50 スタッフが集合

20:00 参加者が集合

20:05 アイスブレイク

20:10 絵しりとりを行いながら交流

20:30 絵しりとりの答え合わせを行いながら交流

20:50 記念写真の撮影を行い参加者はアンケートを回答

21:00 参加者が解散

21:00 スタッフはフィードバックを行った後解散

効 果

- ・今回留学生の参加者が1人だったため、普段以上に留学生の参加者と向き合い交流する ことができた。ゲームの説明はもとより、会話でも、分からない部分や深堀したい話を 置き去りにせず交流できたので、双方の満足感が高かった。
- ・絵しりとりを開始するまでの流れが良かった。人数が少なかったことで、一人ひとりの 自己紹介の時間を長く確保することができ、「自分の好きなもの、好きなこと」をお題に した絵しりとりの開始に向けて、お互いを知る良いきっかけになった。ルール説明では 実演を交えつつ、上記の通り分かりにくい部分までしっかり説明できた。

改善点

- ・絵しりとりを行う際に、自分の番でない時間が少し手持ち無沙汰になってしまった。 →自分が絵を描く番でない人たちは、待ち時間にクイズなどミニゲームを行う。
- ・スタッフが絵しりとりの時間配分を把握できていなかった。
 - →事前準備の段階で実際にオンライン上での絵しりとりを行い、時間を計測し、平均所 要時間を算出しておく。
- ・参加者の募集期間が短くなってしまった。

トを開催できるよう努力したい。

→計画表を作るなどして、事前準備を計画的に行う。

感 想

以前までは春休みにイベントを開催するということはなかったが、留学生にとって長期 休みは日本人学生との交流の機会が減る期間であり、交流イベントが必要とされているの ではないかという観点から、今回のイベントを開催することとなった。留学生の参加者は 1 名のみであり、ニーズに沿ったイベントであったのかについては疑問だが、一方で、一 人ひとりに向き合うことができるという少人数で行うイベントの良い点に気づくことがで きた。参加者と丁寧に向き合えたという点においては、参加者からも高い評価をもらった。 今回のイベントの企画運営の反省点として、計画的に書類の作成ができなかったことや 事前準備の不十分さが挙げられるため、それらの点を改善し、今後も満足度の高いイベン



2.2.3 ピア・スポーツコミュニティ (PSC)

■ ピア・コミュニティの趣旨

テーマは、関大生の「絆」。 "スポーツ" をキーワードにして、関西大学に関わるすべての人の輪を広げ、相互交流を促進することを目的に活動する。在学生同士や卒業生との交流を行うことで、関西大学の学生としての帰属意識や母校愛を高め、人との繋がりを築き、より充実した学生生活を送ることができるようなサポート活動を行っている。

■ 所属人数

1名 * 1年次生1名、2年次生0名、3年次生0名、4年次生0名(2021年3月末現在)

■ ミーティングの概要

支援部署担当者とのミーティング週1回

■ PSCの現状について

2020年度新メンバーが入会し、活動を再開することができた。しかし、1名では活動が難しいことから、支援部署担当者と週に1回のミーティングを行い、企画立案から運営まで、支援部署担当者のサポートを受けながら活動を行っている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

他コミュニティの学生に企画に参加してもらうことが多くあった。また、研修や活動報告会などでも他コミュニティのメンバーと関わる機会が多くあった。今後も他コミュニティの企画に参加するなど、連携促進につなげていきたい。

■ 教職員との連携について

スポーツ振興グループが支援母体である。活動の再開に伴い、企画に関するさまざまなアドバイスなど、多くの支援をいただいている。

■ 課題

今後、活動を発展・安定させるためには、メンバーの募集が最優先である。スポーツ に興味を持つ学生や何か新しいことを始めてみたいと思っている学生に、積極的に広報 活動を行い、メンバーの増加につなげていきたい。

2.2.4 KUサポートプランナー (KUSP)

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU サポートプランナーは、「素晴らしい活動をしているにも関わらず、発表する場所がない」、「多くの関西大学の学生と一緒に活動したい」、「授業以外の学びの機会を実現、提供したい」と思っている関西大学の学生の思いを形にするコミュニティである。関大生の団体及び個人のアイディア企画を募集し、共同で立案から実施まで行うことや、学生の視点を生かした関大生のニーズに沿うようなイベントの発信を行う。

活動を通じて、学年や学部を超えた繋がりを広げ、対人関係能力や自己表現能力などの社会で生きる力を身につけることで、多くの本学学生がキャンパスライフをより良いものにすることをめざしている。

■ 所属人数

6名 *1年次生1名、2年次生0名、3年次生2名、4年次生3名(2021年3月末現在)

■ ミーテイングの概要

原則週に1回

■ ピア・コミュニティ内の連携について

連絡や情報の共有については、メーリングリストと SNS (LINE) を活用することで、会議やその他の連絡を行っている。特に SNS (LINE) は、メンバー間の交流を促進するためにも活用している。改善すべき点は、履修等によりメンバー全員が参加できる会議の日程、時間がないことである。早い段階で日程を決定し、できる限り全員が会議に出られるように努力すると共に、会議に参加できなかったメンバーへのフォローが求められる。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

他コミュニティの方に企画に参加してもらうことが多くあった。しかし、ピアエリア等で他コミュニティのメンバーと交流するメンバーがいる一方で、普段はピアエリアにいないメンバーのなかには、他コミュニティのメンバーと交流がないメンバーもいた。個々のメンバーの交流を増やすことで、コミュニティ間の連携促進につなげていきたい。

■ 教職員との連携について

学生生活支援グループが支援母体である。企画実施前は特に、密なコミュニケーションが取れていた。企画の募集について多くの支援を得られたことで、一般学生の目に多く触れることができたため、企画に多くの方に参加してもらうことができた。また、企画に関する KUSP の運営についてもアドバイスをいただいたことで、広い視野で考え、事前にリスクを減らす対策を考えることができた。

■ 課題

昨年度からの課題の1つであったメンバーの少なさについては、今年度も同様に課題として残っている。しかしながら、今年度は年間を通して来年度以降の募集方法や広報について意見を出し、今後改善策を実行していく方向となっているため、改善が見込める。

また、今年度は、企画者との打ち合わせが十分でなかったことが原因で、中止すること に至った企画があった。そのため、今後は企画者との打ち合わせを密にすることで、改善 したい。 ◆企画名 オンラインでできる!マナー講座

日 程 2021年3月10日(水)13:00~14:30

場 所 オンライン開催 (Zoom)

参加者数 14 名(シニア・サポータ 1 名、研修生 2 名、TA1 名、一般学生 10 名)

目的

コロナウイルスにより、アルバイトや先輩との交流などの社会的マナーを身につける場を 失ってしまった学生に、実際に企業で研修を行なっている方から直接社会的マナーについ て教わる機会を設けること。

内 容

マナー講師である吉岡 由香氏(株式会社 TOHGE)と共同でマナー講座を企画、運営した。ビデオ通話による面接などで気をつけるべきマナーや、相手に良い印象を持ってもらうためのポイントの伝授を行なった。また、メールマナーや正しい敬語の使い方にも触れる内容であった。

効 果

参加者は独学で学ぶことが難しいマナーについての知識を得ることができた。 また、参加者がマナーに関して疑問に思っていることを直接専門家に質問できる機会があり、不安が解消された。

改善点

- ・予想を上回る参加希望者があった場合の対応について考える。
- ・リマインドメールがエラーで届いていないことがあるため、しっかりと申込者全員にリマインドメールを送付できるように工夫をする。
- ・エラーメールが表示されない点を考慮し、今後のリマインドの方法を検討する。

- ・予算の問題や講師との打ち合わせでのトラブルなど、多くの問題を何とか乗り越え実施 することができた企画であった。
- ・団体で動くことの難しさ、頼ることの大切さを学ぶことができた。
- ・周りの方々のサポートなしでは実現することができなかった企画であり、これまで参加 してきた企画の裏で、どれだけの人が動いていたかを実感することができた。



2.2.5 KUコアラ

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU コアラは、関西大学の学生の図書館利用促進をめざすため、学生の視点から、図書館での特集本展示や講習会といった企画を行うコミュニティである。主な活動は、開催時期に合ったテーマの特集本展示や、読書交流会、講演会の実施・運営である。

■ 所属人数

14 名 *1 年次生 1 名、2 年次生 2 名、3 年次生 6 名、4 年次生 5 名 (2021 年 3 月現在)

■ ミーテイングの概要

定例会議 企画の進行状況に合わせて週1回程度オンラインでの開催

■ ピア・コミュニティ内の連携

定例会議時に各企画の進行状況や問題点を共有し合い、全サポータで現在進行中の企画の状況を理解できるように心がけている。また、各自で記録を残しているだけでは、情報の非対称性が問題となる可能性があるので、One drive や LINE で議事録の共有を行い、最低限の情報の共有を行っている。その他にも、クラウドサービスを利用することによって、先輩方が残してくれた資料を参照することができるようにしている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

特に今年度は、運営委員など、他コミュニティのメンバーと共同で企画を行う機会が多かった。そのため、代表や副代表だけでなく、その他のピア・サポータメンバーも他コミュニティのピア・サポータとコミュニケーションをとることができ、さまざまな刺激を受け、有用な情報の共有を行っていた。これにより、今まで以上にピア・コミュニティのメンバーである意識が高まっているのではと考えている。

■ 教職員との連携について

図書館事務室が支援母体であり、活動予定があれば、逐一担当者がメールで連絡を取ることになっている。その他にも、定例会議後には議事録を作成し、情報共有を行っている。

■ 課題

昨年度の課題として、企画開催に際する広報面での工夫が求められる点があった。その点を踏まえ、今年度の 4 月以降は企画広報を行うタイミングを早めるだけでなく、どの方法が効果的に広報できるのか、過去のアンケート及び企画参加者やメンバーの声を参考にして分析を行った。しかし、メンバー募集に関しては課題が残っており、他コミュニティだけではなく、他のサークルや部活動の勧誘方法を参考にして、根本的に勧誘の方法を見直す必要がある。

◆企 画 名 集え本好き! 読書好き交流会 at Zoom

日 程 2020年12月16日(水)5限

場 所 オンライン (Zoom)

参加者数 4名(ピア・サポータ2名、研修生1名、一般学生1名)

目 的

学年、学部を問わず「読書」という共通の趣味を通し、参加者同士がコミュニケーションをとることで、参加者の視野を広げ、未知の本との出会いの場とする。

内 容

- 自己紹介
- ・アイスブレイク (読書遍歴自己紹介)
- ・おすすめ本紹介
- アンケート回答

参加者には自身のオススメする本を1~2冊5分程度で紹介していただきました。

効 果

- ・企画の目的の1つである、未知の本との出会いの場とするという点について、アンケートでは、新しい本のジャンルに挑戦したいと答えた人が多く、狙い通りの結果になったといえる。
- ・期待していた内容については、「人と交流するため」「新たなジャンルを開拓するため」 「自分の好きな本を紹介するため」のうち、「人と交流するため」「自分の好きな本を紹介するため」と答えた人が多く、読書に関して他者との交流を求めているということが分かった。
- ・開催時間については、少し長く感じた人が多かった。
- ・満足度は 75%~100%で、初のオンライン企画ということで、手探りで開催したこともあり、次回以降はオンラインで行う上で注意することなどをリスト化して注意していきたい。

改善点

- ・時間が余ったこともあり、4人で3周紹介したのが少し冗長だった。以前の企画を合わせて考えると、次回以降は2回が適切だろう。
- ・オンラインで開催する場合、参加者同士でのコミュニケーションが難しく、アイス ブレイクがより重要になるため、オンライン用のアイスブレイクのバリエーションをい くつか揃えておきたいと感じた。
- ・前回の企画同様、参加者の数が少なく宣伝の問題が解決していないと感じた。

感 想

今回初めて企画当日を主導する立場で、初のオンライン企画ということもあり、手探りで司会を行った。以前の交流会の企画に参加した経験に照らし合わせながら進行したが、やはり対面とオンラインの違いは想像以上に大きく、主にアイスブレイクで改善の余地が見られた。また、企画側の参加者も司会を含めて3人と少なく、宣伝期間を充分に確保するためにスケジューリングも早めに行うようにしたい。今後もしばらくはオンラインでの企画となるので、今回の反省を活かしてより良い企画を行いたいと思う。

2.2.6 関西大学学生 PR チーム SUGaO

■ ピア・コミュニティの趣旨

関西大学学生 PRチーム SUGaO (以下、「SUGaO」という。) は、関西大学の魅力を学生ならではの目線で社会に向けて発信するコミュニティである。関大の「おもしろい情報」、「おすすめスポット」、「ユニークな人」などを紹介するビデオを作成して動画サイトへアップロードをしたり、Web、SNSを利用し関西大学の"まだ知られていない"情報を発信している。

■ 所属人数

7名 *1年次生1名、2年次生0名、3年次生6名、4年次生3名(2021年3月末現在)

■ ミーティングの概要

週1回

■ ピア・コミュニティ内の連携について

2018 年度に結成して以来、組織の方針を柔軟に変えながらも、それぞれがやりたいこと、向上させたい技能などを原動力として企画を進めている。それぞれの得意分野を生かしながら適切に役割分担をすることを意識している。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

代表者会議に出席するメンバーだけが他のコミュニティとの交流がある状態である。今後は、 他のコミュニティが企画するイベントに参加したり、他コミュニティとコラボした企画を提案 することで交流を深めていきたい。

■ 教職員との連携について

アドバイザーとして社会学部の高増教授や、総合情報学部の谷特別任用教授に助言をいただきながら活動を行っている。また、支援部署であるボランティア活動支援グループとも連携しながら、よりよい活動となるよう取り組んでいる。

■課題

昨年度は、クオリティを上げるための技術重視で企画を進めてしまっていたが、引継ぎが 困難であることや、馴染みのない人には手が出しにくくなってしまったこともあったため、 企画重視の方針に変更した。まだノウハウがしっかりと確立していないところもあり、今後 たくさんの企画を経験することで、円滑に物事を進めていくためのシステムを作っていきた い。 ◆企画名 草野華余子×越前屋俵太トークライブ (YouTube Live)

日 程 2020 年 11月 2日 (月)

場 所 凜風館 1階 ビデオウォール前

参加者数 7名 (ピア・サポータ 4名、教職員 2名、ゲスト 1名)

目的

今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年通りの学園祭が実施できない現状となっていた。通常ならば何万人もの人が訪れ、期待で胸を膨らませる学生や、準備で騒がしくなるサークル、ゼミ生が見られる学園祭だが、今年はオンラインでの実施に変更になり、例年ほどの活気を生み出すのは困難であった。そこで、動画撮影、編集に強みを持つ SUGaO がオンライン上でおもしろく、また学生にとって意味のある企画を実施していきたいと考えた。

内 容

テレビアニメ『鬼滅の刃』の主題歌「紅蓮華」の作曲者であり、関西大学0Gの草野華余子さんとSUGaOのアドバイザーである越前屋俵太氏の対談をYouTubeで生配信した。配信は、ビデオウォールを大型のモニターとして利用し、カメラ3台をスイッチャーと接続して多視点で行った。機材周りは学生が主体として設置し、配信を行った。配信内では、草野さんの学生時代の思い出、軽音部での出来事、コロナ禍での想い、学生へのメッセージなどさまざまなお話を伺った。また、あらかじめ募集していた質問を箱にいれ、くじ引き形式の質問コーナーを行った。YouTubeでは、権利の関係上、学園祭期間のみアーカイブを残した。

効 果

多い時で70 名ほどの視聴者があり、無名のチャンネルとしては悪くないのではないかと思うが、やはり数字としては誇れるものではない。広報をしっかりしていくとともに今後の企画に力を入れて、私たちSUGaOの名前を学内で広めていく必要がある。SUGaO 内では今までやったことのない規模の企画となり、大きな成長が見えたと思う。他にも、関大内でこのようなことができるということを学生だけでなく職員の方にも伝えられたのではないだろうか。今後は他のコミュニティでもやっていない大規模な企画を考え、より差別化をしていきたい。

改善点

学園祭があるのは事前にわかっていたにも関わらず、出演者の決定を待ったために広報が早くできなかったし、十分でなかった。今後は、企画倒れになる恐れに負けずにやっていきたい。また、アドバイザーの先生のコネクションに頼ってしまったことも挙げられる。自分たちでゲストを決めるような行動力を持ちたい。他にも、進行の多くの部分をアドバイザーの先生に頼ってしまった。相手がプロであるという面を考慮したものであるが、もう少し主体性をもてれば良かったと思う。機材的な面でも、保管場所はとても問題になり、ほかのコミュニティに迷惑をかけた。このコミュニティは機材をずっと使っていくので、保管についても考えていく必要がある。

感想

今回は大規模なことを実行できたと思う。普通の学生であれば関われないような人と関わることができ、多くのことを学び取れたと思う。ただし、技術的な引継ぎができないという面はこれから問題になってくるかもしれない。計画がどんどん大規模になってしまうと、より完成度を求めてしまったり上回生がより成長を求めてしまったりしてしまう。それをどこまで抑え、または推し進めるかは考えていく必要がある。ただ、もし引継ぎができるのであれば、学内でも他に類をみない団体にできると思うので、できるだけ引継ぎをしっかりできるような方法を考えたい。

◆企 画 名 SUGaO-TV!! (第1回)

日 程 2020 年 12 月 16 日 (水)

凜風館1階ビデオウォール前 場 所

7名 (ピア・サポータ 4名、総合情報学部生 3名) 参加者数

現状として、関西大学の学生は自分が所属している以外の団体の活動内容や魅力を知ら ない状況にある。そのため、私達SUGaOがさまざまな団体の活動内容や魅力について発信 することでそのような問題を解決していく。また、発信を定期的に続けることで認知度も 高まり、活動団体自ら広報のためのアプローチにSUGaOが選択肢の一つとして挙がってく る可能性が高まる。このような学内の活動団体の相互作用が、大学の活気に繋がり魅力発 信だけでなく、新たな魅力を創り出すことも可能になる。

内 容

昼休憩の時間に凜風館 1階 のビデオウォールを使って、高槻キャンパスで学ぶ総合情 報学部の学生との Zoom 画面を放映した。動画を作成して もらったりスライドを用いたりしながら、高槻キャンパス の学生の生活や千里山キャンパスとの違いを掘り下げてい った。機材としてはパソコンのみで可能。感染症対策もあ ったために対談者は別室を用意し、ゲストとは遠隔で対話 した。



効

昼休憩ということもあって凜風館の1階には席数の約3分の2の人がおり、その中でも半分 くらいの人が視聴していたのではないかと思う。MCの成果で、高槻キャンパスの学生たちに も言いたいことが伝わったという満足感を与えられたのではないか。存在は知っていたけれ どもそれぞれの学生生活について知らない存在であった他キャンパスの学生との交流は、今 後の企画にもいい影響を与えられるかもしれない。また、職員の方たちにもビデオウォール の活用法の一つを示せたと思う。これから、新しくビデオウォールを使った企画を続けてい けそうだ。

改善点

放映の始めにハウリングを起こしてしまい、凜風館にいる人に不快な思いを与えてしまっ た。また、途中から凜風館に入ってくる視聴者も多いため、途中からの視聴であっても内容 がわかるような構成を考える必要がある。他にも、事前にゲストの方と話し合いをするとき に、より綿密な計画を立てたりスライドの作成方法の共有をしていく必要があると感じた。 ゲスト自体も、自分たちのコネクションに頼ってしまっている部分が多いために、関係が薄 い団体との交渉のノウハウも身につけなければならない。

感 想

パソコン1台でできるという意味で、技術面での引継ぎ問題の負担軽減はできるのではな いかと思う。今回は初回ということで、関わっている人が多かったために、多少規模が大き くなってしまったが、全てそうしないといけなくなると引継ぎ面だけでなく機材保存や設置 面でのトラブルが出てきてしまうので、小規模にする必要があるかもしれない。また、これ からゲストと話すMC役を育成する必要が大きくなってきたので、ゲストの伝えたいことを引 き出す能力の分析と活用を意識していきたい。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響を 受け、全てZoomで対談をする構成にしているところを、対面でもできるように計画をしてい きたい。

◆企 画 名 SUGaO-TV!! (第2回)

日 程 2020 年12 月23 日(水)

場 所 凜風館 1階 ビデオウォール前

参加者数 5名 (ピア・サポータ 4名、ゲスト学生 1名)

目 的

現状として、本学の学生は、自分が所属している以外の団体の活動内容や魅力を知らない状況にある。そのため、私達 SUGaO が様々な団体の活動内容や魅力について発信することでそのような問題を解決していく。また、このような発信を定期的に続けることで認知度も高まり、活動団体自ら広報のためのアプローチに SUGaO が選択肢の一つとして挙がってくる可能性が高まる。このような本学の活動団体の相互作用が大学の活気に繋がり、魅力発信だけでなく新たな魅力を創り出すことも可能になる。

内 容

昼休憩の時間に凜風館1階のビデオウォールを使って起業した学生の方との Zoom 画面を放映した。スライドを用いながら学生で起業するとはどのようなものか、行動力の起点、会社の概要を掘り下げていった。機材としてはパソコンのみで可能。感染症対策もあったために対談者は別室を用意し、ゲストとは遠隔で対話した。

効 果

視聴者の数は前回の放映とほとんど同じであった。しかし、前回より個人に目を向け、かつ具体的な活動が見えるという面で興味を引く部分が多かったのではないかと思う。特に、学生起業家という言葉は聞くけれども、どのような気持ちでどのような活動をしているのかは知らない人が多い。そのような"興味はあったけど知らない"ものをどれだけ探し出せるかという点は、今後SUGaO-TV!!を続けていくうえで重要になっていくだろう。その点をメンバーの共通認識として持てたのは良かったのではないか。

改善点

前回と視聴者数が変わらなかったという点は、広報をより強化して取り組む必要があると感じた。情報を広める媒体が少ないという点もあるが、よりこの企画におもしろさを感じてもらえるような内容や魅力的な言葉を練っていかなければならない。他にも、計画の多くの部分をMC の機転に頼ってしまった部分があったため、ゲストとの事前の話し合いなどの事前準備をより綿密にしていかなければならない。

感 想

今回の放映は、初めて先方からお声掛けしていただいたものであった。未だ無名ではあるが、今後知名度が上がっていくにつれて自分たちでゲストを探すだけではなく自分たちの団体も紹介してほしいという要望が出てくるように継続し、成果を出していく必要がある。そのような面で、この企画はジャンルを限定せず、自分の興味を引くものを選んでもおもしろいものが出てくるであろうことから、自分たちで構成しやすいという継続性があると思う。その継続性は、SUGaOとしての実績につながるものであり、広報に活用していくべきものであると考える。

2.3 ピア・サポータからのメッセージ

ピア・サポートをピア・サポートする

ピア・コミュニティ運営本部 小林蒼

私がピア・コミュニティ運営本部(以下「運営本部」という。)に入ったきっかけは、インフォメーションシステムに掲載されていたメンバー募集のお知らせでした。当初は、サークルに入り損ねていたこともあり、「何か団体に所属しておけば安心」という何となくの意識で運営本部に入りました。

1年生の頃は、先輩がやっている企画に何となくついていって参加し、過ごしました。2年生になって新型コロナウイルス感染症の流行により、半年間活動できない状態が続きました。2年生の後半になり、対面での活動ができるようになったとき、運営本部の代表を務めることになりました。

運営本部の代表になってから、考えるようになったことが2点あります。1点目は、運営本部の存在意義です。運営本部は、他のコミュニティとは異なり、特定のコンセプトを持っていません。「コミュニティ同士の連携・交流を促進すること」「ピアの理念を学内に広めること」を目的としたコミュニティです。この目的をどのように捉え、活動していけばよいのかについて悩み考えました。代表として活動していくうちに、たどり着いた一つの答えは、「ピア・サポートをピア・サポートする」ことです。運営本部は、ピア・サポートを行う人をピア・サポートするものなのだと考えるようになってから、運営本部の存在意義が明確になりました。2点目は、ピア・コミュニティは、「学びの宝庫」だということです。ピア・コミュニティでは、学生が企画を一から十まで作り上げます。構想の段階から準備、当日の運営まで、すべて学生で行います。支援部署の職員やTAの助言をいただくなど、学生以外とも関わりながら、企画をより良いものにしていきます。この学生が一から十まで企画を作り上げるというプロセスは、本当に学びが多いと感じています。このプロセスを支援部署の職員やTAという学生以外も関わっている「小さな社会」の中で実行していくピア・コミュニティの活動は、まさに「学びの宝庫」だと思います。

何となく運営本部に入部した私の考えを、このように大きく変えてくれたのが、「学びの 宝庫」ピア・コミュニティです。そのピア・コミュニティでより良い学びを生む活動がで きるように「ピア・サポートをピア・サポートする」ことが、運営本部の存在意義だと私 は考えます。これからも、ピア・コミュニティでより良い学びが生まれるように、そして、 ピア・コミュニティの魅力を多くの人に発信できるように活動していきたいと思います。

(文学部 2年次生)

企画運営を通して学んだこと

KUブリッジ 白数凌弥

私がピア・コミュニティに入ったきっかけは、国際交流に興味を持ち、企画から運営までができるところに魅力を感じたためです。他にも国際交流サークルはあったのですが、1から企画を考え、職員の方とやり取りをし、イベントの実行までできるのはKUブリッジだけだと思いました。

この活動の中でのやりがいは、やはり自分が考えた企画が形になり、参加者から喜びの声をもらったときです。準備段階では、いろいろな書類や講師の方とのやり取りなど、大変なことも多いのですが、イベント後の達成感は計り知れません。

特に、私が1年次生の時に事業責任者として担当した和菓子作りでは、今までにない価値 を届けることができたことに大きな喜びと達成感を感じました。

少人数で企画を考え、準備に何が必要なのか、司会進行をスムーズに進めるためにはどう すればいいのかを考えるのは、とても楽しいです。

このピア・サポート活動では、企画提案力や実行力、パソコンスキルなど、たくさんのことを学ぶことができました。主体的に行動することによって、より大きな学びや発見があると思っています。ここで得た学びは、将来にも必ず生かせると考えているため、これからも関西大学の学生にとって満足のいくイベントを考えていきたいです。

(社会学部 2年次生)

挑戦の意義

KU サポートプランナー 吉田幸星

私が KU サポートプランナーに加入したきっかけは、インフォメーションシステムによる 秋学期募集のお知らせを見たことです。私は当時所属していたサークルを辞めたばかりで、 所属団体を探していたこともあり、興味本位でガイダンスを受けました。そこで KUSP の「人 のやりたいことを叶える」という活動を知って興味を持ち、加入しました。秋学期からの参 加ということで、上手くメンバーと仲良くなれるのか不安でしたが、先輩達が歓迎してくれ たことで、すぐに馴染むことができました。

私が初めて担当者として行った企画は、「オンラインで出来る!マナー講座」でした。この企画は学外の方に講師を依頼して行う企画であり、この企画の担当となることは、過去に企画の運営経験などない私にとっては、大きな挑戦でした。学外者との打ち合わせやポスター制作、書類の提出など初めてのことが一気に押し寄せ、多くの失敗を繰り返しましたが、先輩や支援部署の職員の方に助けられて、何とか実行出来た企画でした。私が今まで何となく参加してきたイベントにも大変な労力が掛かっていたということも気がついた瞬間でした。

必死になって組み立てた企画だったため、無事企画が終わった時の達成感は凄まじく、また参加者からのアンケートの満足度を見たときの喜びは、より一層私をKUSPの活動に引き込みました。

企画の運営を通して行動力や計画力、主体性といったさまざまな力が身についたと思います。実際に高校卒業まで、一度も授業中に手を挙げなかった私が、今では沢山の学生を前にプレゼンテーションや企画の司会を行っています。私はピア・サポート活動を通して、挑戦することは、例えそれが失敗につながったとしても、学びや気付きを得られる大きなチャンスだと知りました。これからもメンバーと共に成長して行きたいと思っています。

(社会学部 2年次生)

ピア・コミュニティで得られたもの

KUコアラ 牧野 悠輝

私が KU コアラに加入したきっかけは、KU コアラが開催した「読書交流会」に参加したことでした。KU コアラは本と図書館の関連企画を行う団体であり、それは私の趣味と合致する部分がとても多く、団体の活動内容に魅力を感じたというのが KU コアラに加入した1番の理由でした。ピア・コミュニティの存在や、KU コアラがそこに属していることを知ったのは加入した後でしたが、ボランティア系の団体にも興味があったので、一石二鳥だと思った記憶があります(当時はピアとボランティアに大した差異は感じていなかったのでそう思いました)。

KU コアラ、ひいてはピア・コミュニティで活動していく中で、一番自分にとってのメリットに感じたことは、さまざまな機会があることです。例えば、私が 1 年次生の秋に行われた活動報告会では、1 年次生ながら KU コアラの活動報告を任せていただき、ソシオホールの演壇に立って大人数の前で話す機会がありました。2 年次生には室長になり、団体を取り仕切る立場になると、企画のスケジューリングや会議進行などをする機会が非常に多くなり、負担が大きくなった反面、得られるものも多かったと思います。どれも普通に大学生活を送る中ではなかなか得られない機会であり、プレゼンや会議進行のスキルは、授業など他の大学生活でも大いに役に立っていると感じています。ピア・コミュニティで磨くことができるスキルはどれもピアでの活動に収まるものではなく、普遍性と将来性があると私はこの3年間で確信しています。

ピアでの活動で様々なことを学べた反面、失敗や至らなかったことも振り返れば多かったと思います。私は企画を立てていく上で「本好きな学生、図書館を利用する学生が何を求めているか」を考えて企画を立ててきましたが、KU コアラに所属しているメンバーが真にやりたいことは何かをあまり考えてこなかったことは自分の中で大きな反省点です。どのような団体であれ、まずはメンバーが楽しめることを随一に考えなければ士気はあがりませんし、団体の魅力が発揮できません。KU コアラは本、つまり趣味の要素が強い団体なので、その点を活かせば、メンバー内での交流ももっと盛んにできたはずだというところが少し後悔しているところではあります。こういった反省も引き継いでいくことで、より良い団体にできればと思います。

(社会学部 2年次生)

失敗はしてもいい

関西大学 PR チーム SUGaO 加藤駿

僕が SUGaO に入った理由は、"技術を磨きたい"でした。今まで勉学でしか測れなかった能力値の評価の幅が広がったことに新鮮味を覚え、誰もが納得するような"技術"を得たいと考えていました。ここで言う"技術"に具体性はなく、"周りの人がやっていないもの"、"就職するときにアピールできるもの"といった曖昧な方向性を持っていたと思います。その頃 SUGaO では Web 制作と動画制作が主な活動であり、自分にとっては、"技術"を得る大きなチャンスだったと言えました。そこで、当時 SUGaO に所属していた理系の友達に紹介してもらい、加入後は機材関係、IT スキルに特化した役割を担いました。

大きく自分のスキルが向上したといえるのは、統一学園祭企画で『草野華余子×越前屋俵太 トークライブ』と題した YouTube Live での経験です。数台のカメラ設置、コード配線、スイッチング操作や OBS での Live 配信作業などは、どれも体験したことがなく、新しい挑戦だったと言えます。また、機材関係だけでなく、準備や打ち合わせなど、チームで活動するという取り組みも、初めて行った良い機会だったと言えます。

他にも、新入生に対する企画である『新入生への質問回答』の YouTube 動画作成をしました。コロナ禍で課外活動が制限されていたこともあり、各々メンバーに質問回答の動画を撮影してもらった後、僕が編集してアップロードするというテレワーク活動を行いました。今までに意識をしていなかった広報向けの映像制作や、新しい試みである VTuber 形式の撮影を行ったりもして、技術習得の実感が大きかったです。

しかし、年度最後に代表交代があり自分が今後の SUGaO を担っていくことが決まった段階になって、失敗に気づきました。この SUGaO の目的が「関大生が学生目線で関大の広報をすること」であったことです。技術に固執するあまりに壮大なプロジェクトを興してしまったり、完成度を気にしすぎて他の人が再現することのできないシステムを作り上げてしまったりした例があります。その結果、多くのメンバーを付き合わせてしまい、不本意な役割を振ってしまうことになってしまいました。

この失敗を元に、目的の軸を維持しながら、「メンバーのやりたいことができる」、「メンバーが面白いと思ったことができる」、そんな環境づくりを意識するようにしました。重要になってくるのは「挑戦してもいいと思わせる雰囲気」です。そのために、現在はチーム内でのファシリテーション能力とコーチング技術を磨くことに注力しています。

3年前に発足した SUGaO は、体制を変えながら進んでいます。失敗してもいい。思うがままに挑戦できる。そんな環境は多くの部活やサークルでは難しいものではないでしょうか。 今後はこの考え方を大切に、柔軟な環境を創っていき、次の世代に繋げていくことに重きを置きたいと思っています。

(システム理工学部 2年次生)

2.4 支援部署職員からのメッセージ

学生による学生のための国際交流

国際教育グループ(受入留学生支援チーム) 飯島直樹

KU ブリッジは「外国人留学生と一般学生の架け橋」となることを目的として、2008 年に発足し、国際交流イベント等を企画しているピア・コミュニティです。毎月1回をベースとして、さまざまなイベントを企画し、国際交流活動を行っています。

私は、国際教育グループで受入留学生支援業務に従事していますが、KU ブリッジの担当となってから2年が経ちました。関西大学では、1,000名を超える外国人留学生が学んでいます。彼らの「一般学生と交流したい、友達になりたい」という希望と、一般学生の「外国人留学生と交流したい、友達になりたい」という希望。この双方を、学生目線でマッチさせる役割をKUブリッジは担っています。学生のニーズに対して、一番近くで、一番身近な対応ができるのがKUブリッジの魅力だと感じています。学生生活でいろいろなことに気づき、新たな国際交流の取り組みを考え、企画を実施していくなかで、企画・想定・創造する力が醸成されていくほか、後輩への指導力、集団を動かすリーダーシップも身に着けることができ、担当としても、学生たちが活動のなかで目に見えて成長していることが見てとれました。また、週に1回のメンバーとのミーティング、企画実行の主要メンバーとの打ち合わせ、企画書・予算書作成、そして大学への相談・確認などを通じて、個人の考えをチームで一つにまとめ、形にしていくことの大変さ、そしてやりがいを学んでくれているのではないかと感じています。

一方で、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、従来開催していたイベントのほとんどが開催できませんでした。また、留学生の多くが入国制限措置に伴い受入停止となって留学を断念したり、在学していても日本に入国出来ない状況となりました。自分たちの活動の根幹を揺るがしかねない未曽有の事態を受け、KU ブリッジのメンバーも自分たちの活動のやりがいや、方向性を見いだせず、大変苦しい状況に置かれました。しかし、そのような中でも、オンラインで開催する新たなイベントを企画したり、交流がない中で孤立している留学生をターゲットとしてイベントを行うなど、少しでも懸け橋となるよう頑張って活動してくれました。活動に制限がかかり、自分たちが本当にしたかった活動は十分にはできなかったかもしれません。しかしこの逆風の中、仲間と共に考え、行動した力は彼らにとって、必ず将来の糧となって生きてくれるものであると考えています。

今後も、KU ブリッジのメンバーが感じていること、考えたことを自由に企画・提案してもらいながら、私もアドバイスを加えるなかで、より良いイベント企画、ピア・コミュニティ活動、そして KU ブリッジのメンバーそれぞれの成長を目指して、職員としてサポートしていく所存です。

以上

新型コロナウイルス感染症という逆境を通じて感じたこと

学生生活支援グループ 明原 渡

2019 年度から KU サポートプランナー (KUSP) の担当をさせていただいております。これまではピア・サポート活動に携わる機会がなかったため、日々、学生と関わる中で、「学生が学生を支援する」というピア・サポート活動の勉強をさせていただいております。

昨年度、KUSPの担当を通じて感じたことは、人数が少ないことによる運営の困難さです。 年々、減少していた部員数が新型コロナウイルス感染症の影響により、さらに大きな問題と なりました。

企画を実施するまでにはたくさんの労力を必要とします。企画の立案に関しては、様々なアイデアを出し合い、議論し合うことで企画内容がブラッシュアップされます。そのため、メンバーが少ない状況の中で、多くのアイデアを出していくことは、KUSP にとって大きな課題でした。

また、KUSP 以外の学生から企画のアイデアを募集する企画においては、新たなアイデアがなかなか集まらず、ピアの存在を知らない学生が多いという課題が浮き彫りとなりました。今後は、学内の他の団体(届出団体等)とも関わりを持つことで、さらに学生同士の支援を拡大させてほしいと思います。

このような人数低下に伴う、企画実施の難しさを受け、KUSP は、学生のニーズがありそうな企画であれば「なんでもできる」というこれまでの活動形態から、「大学の講義からは得られない学びを提供する」という方針に舵を切りました。

新型コロナウイルス感染症の影響で「本来の活動ができない」とネガティブな感情を持つだけで終わらずに、オンラインでの企画実施という新しいことに対して、「まずはやってみる」という気持ちを持ってくれたことが、今の活動につながっていると思います。

人数が少ない状況で初めての取り組みを実施する過程には、様々な課題や困難があった と思います。しかし、それらと向き合いながら学生自身が考え抜き、悩み続けることが個人 の成長、ひいては、団体の成長につながり、学生同士がより支え合える関係が構築されると 考え、彼らとコミュニケーションを取っていました。

コロナ禍を通じて、新しいことに対し、挑戦する気持ちを大切にしてほしいと、より強く 思いました。ただし、挑戦というものはただやればよいというものではなく、実施に向けて の準備、生じた課題と真摯に向き合うことが大切です。今後も、学生が悩みながらも課題と 向き合い続けられるように、職員の立場からサポートしていきたいと考えます。

学生たちが様々な困難を乗り越えることを自信につなげ、活動の幅を更に広げていって ほしいです。そして、学生時代にピア・サポート活動をしていたことが、社会で生きていく うえでの誇り、財産となることを願っています。

以上

1年を振り返って

図書館事務室 田中舞衣

KU コアラとは、学生の視点に立って独自の工夫をすることにより、学生の図書館利用を向上させることを目的として活動しているピア・コミュニティです。

コロナ禍での一年を通して、KU コアラの皆さんと協働し学んだことは、ありきたりかも しれませんが、「やってみたいことに挑戦してみる行動力」と「限られた資源の中での企画 力」です。

例えば、例年行われている「読書交流会」は、本来対面で、参加者同士がコミュニケーションを取り合い、お薦めの本を紹介するという企画ですが、2020年度は対面での実施がかなわなかったため、オンラインでの開催となりました。初のオンラインでの企画開催で、「どのように参加者を募集するのか」や「進行は対面の場合と変更すべきか」等、学生も私自身も手探りでしたが、今までと違うことでも「やってみる」学生の姿勢に感心したことを覚えています。

また、12月から2月にかけては、「新入生に贈る100冊 [電子版]」で提供する書籍からおススメの本を紹介するアプリ、「KANDAI BOOK LUCK!」の制作に力を貸してくれました。この企画では通常とは異なり、既に図書館側で図書がリストアップされている所からのスタートでした。学生がより興味を持ってくれそうな、図書のカテゴリー分けやカテゴリー設定等の案を提案してくれ、「ぴえん」や「エモい」等、一口で説明することが難しい言葉に沿う本選びの手助けをしてくれました。KU コアラの皆さんが、学生に読んで欲しいと思う本を自由に選択できるわけではない企画でしたが、学生ならではの目線で考案し提案する企画力は素晴らしく、私自身、見習わなくてはいけないなと感じました。

ピア・サポート活動の魅力の一つは、企画の考案やスケジュール調整等、やってみたいと思うことを実現するために必要な工程を知り、さらにその難しさを経験することができることだと思っています。そして、図書館事務室が支援部署として KU コアラの活動を支援することは、彼らを通じて間接的に図書館利用者のニーズを意識する良い機会となっていると思います。互いにそうした機会を創出することでお互いのパフォーマンスを向上させるべく、これからも KU コアラと図書館事務室との関わりを持続させることに尽力し、よりよい企画・図書館運営に発展させていくことができるようにしていきたいと思います。

以上

3 学生支援室の活動報告

3.1 学生支援室の役割と主な活動

学生センター内に設置されている「学生支援室」では、ピア・コミュニティの支援等 (ピア・サポータの研修を含む。)を行っている。

ここでは、学生支援室 TA (ティーチング・アシスタント) が中心となり活動を行っており、上述の全般的な補助業務とともに、ピア・サポータに対する助言を、教職員とともに協働して行っている。また、学生と大学がうまく連携できるように橋渡し的な役割も果たしている。

2020年度は、1名の新しい学生支援室 TA を迎えることができた。特筆すべき活動としては、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、各コミュニティの活動自体が少ない傾向にはあったが、その中でもオンラインを活用した研修内容の構築などを行ったことや、シニア・サポータやピア・サポータがファシリテーターとして研修に参加することができるようにするなど、研修制度の見直しが挙げられる。また、継続的・安定的に学生支援室の機能が果たせるようにするため、日常においても引き継ぎの連携に力を注いだ。

これらを通して、今後も継続的そして発展的にピア・サポート活動を行っていくために必要となる知識・スキル等の共有や伝承を行った。

学生支援室 TA は、学生を支援する関わりが深いため、その果たす役割は大きい。学生支援室 TA と教職員の連携をさらに強化しつつ、ピア・サポート活動を学生たちと共に育む機関の一つとして、今後も学生支援室を継続して運営していく所存である。

参考資料

平成23年4月1日制定

1 趣旨

この内規は、平成 19 年度文部科学省による、新たな社会的ニーズに対応した学生支援 プログラムの採択を受けたプログラム「広がれ!学生自立型ピア・コミュニティ」の取 組継続を受け、その取り組みに対する支援方策等を講じるため、その運営等に必要な事 項を定めるものとする。

2 目的

学生が求める学生支援を学生自らが実践することを目指した「学生総ピア・サポータ体制」の構築を図るとともに、ピア・サポート活動を通して社会人基礎力を十分身につけ、他者を思いやることのできる豊かな人間性をもった人材を養成することを目的とする。

3 学生支援連絡協議会

- (1) 本プログラムを実施運営するにあたっての意思決定機関として、学生支援連絡協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- (2) 協議会は次に掲げる者をもって構成する。
 - ア 学生センター所長
 - イ 学生センター副所長 1名
 - ウ 専任教育職員のうちから学長が指名する者 若干名
 - エ 学生サービス事務局長
 - 才 学事局(授業支援担当)次長
 - カ 入試事務局次長
 - キ 学生サービス事務局次長
 - ク 学長室(国際担当)次長
 - ケ キャリアセンター事務局次長
 - コ 学術情報事務局(図書館担当)次長
 - サ 学術情報事務局(IT担当)次長
 - シ 学生生活支援グループ長
 - ス ボランティア活動支援グループ長
 - セ ボランティア活動支援グループ事務担当者 若干名
- (3) 第2号ア、イ及びエからスまでに規定する委員の任期は役職在任中とする。
- (4) 第2号ウに規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- (5) 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者 の任期は、前任者の残任期間とする。
- (6) 協議会は、必要に応じて、前号に規定する委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- (7) 協議会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

4 議長及び副議長

協議会の議長は、学生センター所長をもって充てる。副議長は議長の指名による。

5 設置

第 2 項の目的を達成するための組織として「学生支援室」をボランティア活動支援グループ内に置く。

6 運営スタッフ

学生支援室は次に掲げるスタッフにより運営する。 ア ボランティア活動支援グループ事務担当者 若干名 イ ティーチングアシスタント 若干名

7 事務

この内規の改廃及び学生支援室に関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

附則

この内規は、平成23年4月1日から施行する。

附則

この内規(改正)は、平成24年12月1日から施行する。

附則

この内規(改正)は、平成26年10月1日から施行する。

附則

- 1 この内規(改正)は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この内規(改正)施行の際に第 3 項第 2 号ウにより選出される委員の任期は、同項第 4 号の規定にかかわらず平成 28 年 9 月 30 日までとする。

2020年度学生支援連絡協議会 委員一覧

2020.4.1

\setminus	役職/所属	氏 名	任 期
ア	学生センター所長	岡本 哲和	役職在任中
1	学生センター副所長	松村 吉信	役職在任中
ゥ	文学部教授	多賀 太	2018. 10. 1 ~2020. 9. 30
I	学生サービス事務局長	村上 隆志	役職在任中
オ	学事局(授業支援担当)次長	萩原 恒夫	役職在任中
カ	入試事務局次長	井村 誠	役職在任中
+	学生サービス事務局次長	鈴木 啓祐	役職在任中
þ	国際事務局次長	松川健志	役職在任中
ケ	キャリアセンター事務局次長	荒堀 善文	役職在任中
П	学術情報事務局(図書館担当)次長	久保田 真也	役職在任中
Ħ	学術情報事務局 (IT担当) 次長	柿本 昌範	役職在任中
シ	学生生活支援グループ長	奈須 秀治	役職在任中
ス	ボランティア活動支援グループ長	宇田川 真治	役職在任中
		中井 次郎	
セ	ボランティア活動支援グループ事務担当者	橋野 真歩	
		田村 南波	

役職/所属 氏 名 任 期 ア 学生センター所長 役職在任中 松村 吉信 ィ 学生センター副所長 石井 光 役職在任中 2020. 10. 1 ~2022. 9. 30 ウ 文学部教授 多賀 太 ェ 学生サービス事務局長 村上 隆志 役職在任中 オ 学事局 (授業支援担当) 次長 萩原 恒夫 役職在任中 カ 入試事務局局長 井村 誠 役職在任中 キ 学生サービス事務局次長 鈴木 啓祐 役職在任中 ク 国際事務局次長 松川 健志 役職在任中 ケーキャリアセンター事務局次長 荒堀 善文 役職在任中 コ 学術情報事務局 (図書館担当) 次長 久保田 真也 役職在任中 サ 学術情報事務局 (IT担当) 次長 柿本 昌範 役職在任中 シ 学生生活支援グループ長 奈須 秀治 役職在任中 ス ボランティア活動支援グループ長 宇田川 真治 役職在任中 中井 次郎

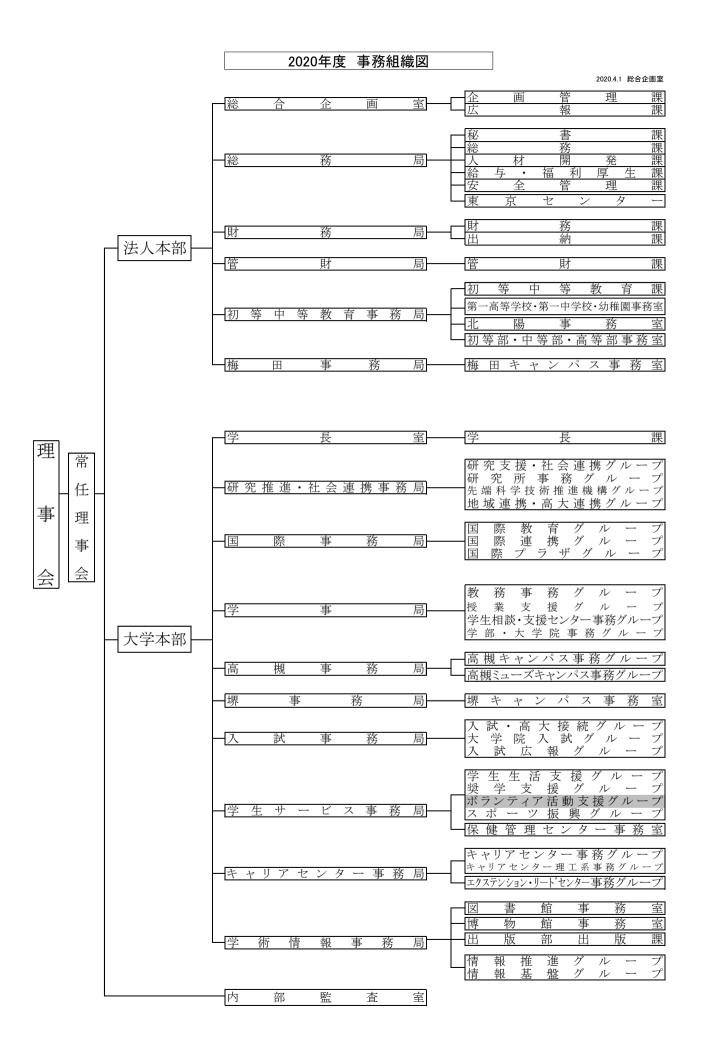
橋野 真歩

田村 南波

セ ボランティア活動支援グループ事務担当者

2020.10.1

学生支援プログラム「広がれ!学生自立型ピア・コミュニティ」に関する取扱内規 3-(2)に基づく



関西大学ピア・コミュニティ 2020 年度報告書

発 行: 2021年9月 発行者: 関西大学

編集者: 関西大学学生センター ボランティア活動支援グループ

住 所: 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

電 話: 06-6368-1229

U R L : http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp

印 刷: 大都印刷株式会社

